



## 1. 理事会からのお知らせ

### (1) 代表理事挨拶

皆様におかれましては、平素から TCER の活動に多大なるご支援とご協力を賜り、ありがとうございます。今年の夏も暑いですね。

今、国内外で、アベノミクスが大きな話題となっています。私が 6 月に参加した OECD-NEERO の会合では、危うくも何しろ前に一步踏み出そうとする日本に対し、同じく長期の不況に苦しむヨーロッパの参加者から、ある種、羨望の眼差しが向けられていました。

また、7月22日に開催した TCER=経済同友会セミナー（ミニシンポジウム）では、「安倍政権の経済政策を評価する」というテーマのもと、100名以上の実業界の方々にご参加いただきました。政策レジームの転換を印象づけることによってどこまで人々の期待を変えうるのか、それを中長期の成長軌道に乗せるには何が必要なのかといった議論は、大変勉強になりました。ご協力いただいた渡辺努さん、堀井昭成さん、福田慎一さんからは、学問上の立場からははっきりとモノを言いつつ、自らの発言が世の中の行方に影響を与えるかも知れないという自覚をもって責任ある立場から物事を論ずる、そういうプロとしての姿勢が伝わってきました。ありがとうございました。

経済同友会の皆様からは多大なるご援助をいただいています。もっとも現実経済に対する経済学者のなし得ることを示し、さらなる支持を受けられるようになればと思っています。

今年度は、TCER プロジェクト（旧逗子コンファレンス）を復活させるという事業も残っています。30 数年前の参加者を見ると、本当に日本最高の人々が集まっていますが、当時の彼らの年齢を見ると実は若いですね。自分たちの力不足を感じざるを得ませんが、やれることをしっかりやって、若い人たちを巻き込み、意義あるコンファレンス・シリーズ、出版計画を再開したいと考えています。

さらに、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）との出版プロジェクト、東芝国際交流財団（TIFO）との協力による東南アジアの研究者との研究交流などの新しい事業も、ぼちぼち進めていきますので、ご協力いただければ幸いです。

引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしく申し上げます。

木村福成（代表理事・慶應義塾大学）@ヤンゴン

### (2) 2013年度前半の理事会報告

2013年度第1回理事会は、2013年5月9日（木曜日）午後1時～2時30分、飯田橋の TCER 事務所において開催されました。平成24年度の事業報告書及び会計報告書が承認されました。財産運用管理規程に基づき、平成25年度の寄付金収入が入る前の支出

に充てるため、特定資産を取り崩すこと、より高い利回りが見込める銀行に特定資産の預け先を変更することが承認されました。平成 25 年度の収支補正予算書、ワーキングペーパー投稿規程の改定についても承認されました。

また、10 名の新規フェローの入会も承認されました。その他の審議事項として、SSRN 料金の支払いのため法人カードに加入すること、緊急課題対応プロジェクト事業としてアベノミクスに関するプロジェクトを立ち上げることについて議論が行われました。

### (3) 2013年度前半の評議員会報告

2013年度第1回評議員会は、2013年6月14日（金曜日）午前10時～11時、日本工業倶楽部で開催されました。平成24年度の事業報告書及び会計報告書、平成25年度収支補正予算書が承認されました。ワーキングペーパー投稿規程の改定、新規フェローの入会承認等が報告されました。

### (4) 2013年度研究助成決定のお知らせ

今回は 18 名と多数の応募がありましたが、予算が 100 万円ということから 4 名に絞り助成することとなりました。過去に TCER から助成を受けた方、研究内容が TCER の方針と合わない可能性がある方等を除きました。

## 2. コンファレンスご案内・報告

### 公1 国際的学術研究・交流事業

#### (1) 東アジア研究交流事業（2013 年度 NBER-TCER 東アジア経済セミナー）報告

本年で第 24 回目となった東アジアセミナー(NBER-TCER、他共催)は、2013 年 6 月 21-22 日、ニュージーランド、ウェリントン市において、Victoria University of Wellington, Reserve Bank of New Zealand and the Treasury of New Zealand をローカル・スポンサーとして開催されました。本年度のテーマは、” Crises in the Open Economy” でした。日本 (TCER 派遣)からは、青木浩介 (東京大学准教授)、および祝迫得夫 (一橋大学教授) がそれぞれ著者兼討論者として参加、伊藤隆敏 (東京大学教授) が (Andrew Rose との共同) オーガナイザーとして参加しました。全部で 12 本の論文が提出され (1 本は著者が天候不順で空港閉鎖になったため不参加)、活発な議論が展開されました。論文は次の NBER のサイトで入手可能です。

<http://conference.nber.org/confer/2013/ease13/program.html>

EASE は、以下の 8 研究所によって運営されている国際コンファレンスです。

National Bureau of Economic Research, Inc. (ケンブリッジ、アメリカ)

Australian National University (キャンベラ、オーストラリア)

China Center for Economic Research (北京、中国)

Chung-Hua Institution for Economic Research (台北、台湾)

Hong Kong University of Science and Technology (香港)

Korea Development Institute (ソウル、韓国)

National University of Singapore (シンガポール)

Tokyo Center for Economic Research (東京、日本)

来年 (2014 年) 6 月には、TCER は主催者となり、日本で開催することが決まりました。

## (2) 環太平洋地域研究交流事業 (2013 年度アジア危機コンファレンス) 報告

2013 年度環太平洋地域研究交流事業が、2013 年 7 月 27 日 (土) - 28 日 (日) の両日、大阪大学・豊中キャンパスで APEA コンファレンスとして行われました。TCER は重要なスポンサーとして大会全体をサポートし、アジア環太平洋地域が抱える諸問題について、最近の理論分析結果の紹介と問題提起や、国際経済、金融、マクロ経済学などさまざまな観点から世界経済の安定に向けたテーマに関して、参加者と議論を行う場を提供しました (APEA 会議全体の詳細は、<http://www.apeaweb.org/confer/osaka13/program.htm> で閲覧可能です)。

世界金融危機やユーロ危機を経験した世界経済は、依然として回復半ばの段階であり、危機の再発防止に向けた分析やそのための制度設計は重要な研究テーマです。世界金融危機やユーロ危機の原因は、従来の経済危機とは異なるものであり、その教訓は、危機の震源地である欧米諸国だけでなく、東アジアの経済システムの是非を含めて数多くの論争を生み出しています。また、日本経済は、アベノミクスのもとで景気は回復途上にあるものの、依然として数多くの不安定要因を抱えています。今回の会議でも、アベノミクスがいかなる影響を日本経済やアジア経済に及ぼすかについては、参加者の非常に高い関心が寄せられました。コンファレンスには、アジア太平洋諸国の研究者を中心に世界各国から経済学者が参加し、多数の平行・セッションで、これら東アジア諸国が直面する重要な政策的課題を経済学の観点から活発に議論・研究交流が展開され、大変有益でした。

また、会議では、Joshua Aizenman 氏 (南カリフォルニア大学教授) と星岳雄氏 (スタンフォード大学教授) の 2 名による招待講演も行われました。Aizenman 氏は、Macroeconomic Adjustment and the History of Crises in Open Economies というタイトルで、グローバル化した国際経済の危機がいかに発生するかに関して、歴史的な観点を交え

た興味深い報告を行いました。また、星氏は、Abenomics: Will It Restore Japan's Economic Growth? というタイトルで、アベノミクスに関して、その効果を問題点・課題を含めて、海外からの参加者にもわかりやすく解説し、大変好評を博しました。

なお、今回の APEA コンファレンスには、TCER から、井堀利宏（東京大学）、福田慎一（東京大学）、林正義（東京大学）、武田史子（東京大学）、小川英治（一橋大学）、塩路悦郎（一橋大学）、佐々木百合（明治学院大学）、宮川努（学習院大学）、細野薫（学習院大学）、別所俊一郎（慶應義塾大学）、木村福成（慶應義塾大学）ら多数の参加があり、報告と討論を行いました（敬称略）。

### （3）日米欧研究交流事業（TRIO コンファレンス）報告

本年度の日米欧研究交流事業は、本年 3 月に政策研究大学院（GRIPS）で開催された TRIO コンファレンス「開発経済学における社会実験：その成果と新しい方向性（Experiments for Development: Achievements and New Directions）」（共催：NBER および CEPR）での報告論文をコンファレンスでのコメントをもとに改訂してもらい、レフェリー・プロセスを得て、TCER Working Paper Series および Journal of Japanese and International Economies の特集号に掲載する予定です。

開発経済学では、近年、「社会実験」によるエビデンスに基づいた政策形成という新しい潮流が生まれています。「社会実験」では、ランダム化比較試験を使って、開発援助で何が実際に役に立っていて、何が役に立っていないのかを調査する方法が主流となっています。TCER Working Paper Series および Journal of Japanese and International Economies の特集号では、これら開発経済学の最先端の研究が紹介される予定です。

なお、次回以降の TRIO コンファレンスに関しては、現在、NBER と交渉中です。

## 公2 学術研究交流促進事業

### （1）国際学術研究機関交流事業（2013 年度 NERO コンファレンス）報告

2013 年度 NERO コンファレンスは、2013 年 6 月 21 日、パリの OECD 本部で開催され、TCER からは木村福成（慶應義塾大学教授）が出席しました。本年度のテーマは”Evidence-Based Economic Policy in the Aftermath of the Crisis” で、4 つのセッションでそれぞれ数本のプレゼンテーションがあり、それに続いて活発なディスカッションが行われました。木村は第 3 セッションで”How to Grow with Developing Countries? Globalizing Corporate Activities and Domestic Economy in Japan” と題する発表を行いました。最後のセッションでは、各研究所が特に関心を有している研究テーマを発表し、来年度のテーマ設定のための準備を行いました。

発表者および発表題目は以下の通りでした。

#### 1. Monetary Policy

Bill Robson, CD Howe, “Concerns about the ‘low for long’ environment, mainly with regard to the household sector and financial intermediaries, and debates over how effectively macroprudential regulation’ can address them”

Marcel Fratzcher, DIW, “Monetary policy spillovers”

Sven Blöndal, OECD, “Marginal costs and benefits of extremely accommodating monetary policy”

#### 2. Fiscal Policy

Coen Teulings, CPB (formerly), “Optimal fiscal policy”

Boris Cournède, OECD, “The choice of consolidation instruments in the face of conflicting objectives”

Jim Poterba, NBER, “New strategies for estimating fiscal multipliers”

#### 3. Post-crisis Structural Reform

Fukunari Kimura, TCER, “How to grow with developing countries? Globalizing corporate activities and domestic economy in Japan”

Alain de Serres, OECD, “The structural reform agenda to boost long-term growth and its side-effects on near-term activity and other objectives”

#### 4. European Adjustment

Karl Aiginger, WIFO, “Restarting growth in southern Europe in a period of fiscal consolidation”

Christophe Blot, OFCE, “European fiscal policy: the timing of fiscal consolidation”

John Fitzgerald, ESRI, “Lessons from a painful adjustment (the Irish experience of last 5 years compared with the adjustment process in Spain and also with earlier adjustments undertaken in Europe during past crises)”

Guntram Wolff, Bruegel, “Bruegel’s evaluation of the Troika programmes”

#### 5. The Research Agenda (Closing Roundtable)

### (2) TCER 定例研究会 (2013 年度 TCER 研究会) 報告

2013 年度の TCER 研究会は慶應義塾大学にて行われています。使用言語は基本的に英語です。フェローの方はいつでも参加できます。詳細は以下のサイトをご覧ください。

<http://web.econ.keio.ac.jp/org/pubecon/pubecon.html>

April 12(Fri) 4:30-6:00

Sakata, Kei (Ritsumeikan University, Faculty of Economics)

"Occupation, Retirement and Cognitive Functioning"

April 19(Fri) 4:30-6:00

Kobayashi, Keiichiro (Keio University, Faculty of Economics)

"Deflation and debt: A neoclassical framework for monetary policy analysis"

April 23(Tues) 1:00-2:30

Hale Oner (Koc University, Turkey)

"Servant Leadership and paternalistic leadership styles in the Turkish business context"

April 26(Fri) 4:30-6:00

Wakabayashi, Midori (Tohoku University, Graduate School of Economics)

"Commitments in Marriage and Undersaving."

(joint with Kureishi, Wataru )

May 10(Fri) 2:45-3:15

Russell Cooper (Pennsylvania State University, Department of Economics)

"FRAGILE DEBT AND THE CREDIBLE SHARING OF STRATEGIC UNCERTAINTY"

May 10(Fri) 4:30-6:00

Naoi, Michio (Keio University, Faculty of Economics)

"Subjective Belief, External Information and Earthquake Insurance  
Purchase: Evidence from Japanese Post-Quake Data"

(with Takuya Ishino and Miki Seko)

May 17(Fri) 2:45-3:15

Wada, Ryoko (Keiai University, Faculty of Economics)

"Condition of Naïve Diversification"

May 17(Fri) 4:30-6:00

Mishima, Kohei (Keio University, Faculty of Economics)

"Capability-building competition in the ASEAN motorcycle industry"

May 24(Fri) 4:30-6:00

Nakabayashi, Masaki (The University of Tokyo, Institute of Social Science)

"Acquired Skill and Learned Ability: Wage Dynamics in Internal Labor Markets"

May 31(Fri) 2:45-4:15

Bob Gregory (Australian National University ,College of Business & Economics)

"Working More at Older Ages: Exploring Responses to Changing Life Expectancy and Welfare Policy Reform"

May 31(Fri) 4:30-6:00

Nakajima, Kentaro (Tohoku University, Graduate School of Economics)

"Estimating Geographic Frictions on Interfirm Transactions"

June 7 (Fri) 4:30-6:00

Dmitry Shapiro (University of North Carolina at Charlotte, The Belk College of Business)

"Microfinance and Dynamic Incentives"

June 14 (Fri) 4:30-6:00

Ohashi, Hiroshi (University of Tokyo, Faculty of Economics)

"Effects of Domestic Merger on Exports: The Case Study of the 1998 Korean Automobiles"

June 21 (Fri) 2:45-4:15

Miles Kimball (University of Michigan, Department of Economics)

"Breaking Through the Zero Lower Bound"

June 21 (Fri) 4:30-6:00 ( J )

Suzuki, Katsushi (Kobe University, Graduate School of Business Administration)

"日本における第三者割当増資の研究"

June 28(Fri) 2:45-4:15

Suzuki, Toru (University of Technology Sydney)

"Directives, Expressives, and Motivation: A cheap talk game approach"

June 28(Fri) 4:30-6:00

Sato, Motohiro (Hitotsubashi University School of International and Public Policy and Graduate



School of Economics)

"Optimal Income Taxation and Risk: The Extensive-Margin Case"

**(3) ミクロ経済分析事業 (2013年度 TCER ミクロコンファレンス・DC コンファレンスとの共同開催) ご案内**

2013年度のTCER ミクロコンファレンスは、第19回ディセントラライゼーション・コンファレンス(DC)との共催で、9月13日(金)に横浜国立大学にて開催されます。日本経済学会秋季大会の前日の開催です。

TCER ミクロコンファレンスのホームページは次の通りです。

<http://www.kier.kyoto-u.ac.jp/~game/19thDCConference.htm>

論文発表だけでなく、コンファレンスへの参加を歓迎します。参加人数確認のため、参加を予定されている方は上記ホームページに従って、9月5日までに参加登録をお願いします。

**(4) マクロ経済分析事業 (2013年度 TCER マクロコンファレンス) ご案内**

1999年以来、年に1回 TCER マクロコンファレンスが開催されています。2013年度の第15回 TCER マクロコンファレンスは東京(東京大学)で開催されます。時期としては11月ないし12月を予定しています。

**(5) 若手研究者育成支援事業 (2013年度ジュニアワークショップ) ご案内**

2013年度のTCER ジュニアワークショップは、第16回労働経済学コンファレンスとの共催で、9月12日(木)-13日(金)に日本大学大学院総合科学研究科にて開催されます。日本経済学会秋季大会の前々日・前日の開催です。

コンファレンスのホームページは次の通りです。ジュニアワークショップはポスターセッションとして行われます。

<https://sites.google.com/site/tokyolaborwkshp/conf2013>

コンファレンスへの参加を歓迎します。参加を予定されている方は上記ホームページに従って、8月25日までに参加登録をお願いします。

**(6) 特別プロジェクト「アベノミクス」報告**

TCERでは、本年度、特別プロジェクトとして「アベノミクス」を立ち上げることになりました。アベノミクスは、2012年12月26日より始まった第2次安倍内閣におい

て、安倍首相が表明した”3本の矢”を柱とする経済政策のことです。政策の最大目標を、デフレ脱却と経済回復と位置づけ、国内だけでなく世界からも注目を集めています。ただ、その効果には賛否両論があり、TCERでは学術的観点からこの問題を取り上げ、その成果を日本経済新聞で公表するなど、社会に還元する予定です。なお、7月22日に「安倍政権の経済政策を評価する」というテーマでTCER=同友会セミナー（ミニシンポジウム）を開催しました。

## 公1、2、3 共通事業

### (1) 新ワーキングペーパーシステム稼働のお知らせ

この度、TCER Working Paper Series のウェブサイトが刷新されました。その「新しさ」は次の3点に要約されます。

#### 【1】投稿時の入力が楽になりました。

旧システムではワーキングペーパーの作成に必ずしも必要のない情報の入力が数多く含まれていました。新システムでは入力を必要項目だけにスリム化し、特に英語論文(E-Series)の場合には英語による入力だけで済むようにしました。入力項目の指示が英語と日本語の併記に完全対応するようになり、外国人研究者も入力できるようになりました。

#### 【2】エラーが出にくくなりました。

旧システムではしばしば投稿プロセス等でエラーが発生していました。新システムでは担当理事と事務局が管轄の下、専門業者にシステム構築を依頼し、エラー発生時に原因究明と修正作業を行って、将来の同様の不具合の発生を防ぐ体制を整えました。

#### 【3】SSRNなど国際的な論文 circulation システムと繋がりました。

TCER Working Paper Series は本年4月に Social Science Research Network (SSRN)に加入しました。新システムで公開された英語論文(E-Series)はSSRNに随時掲載され、定期的に世界の研究者に配信されることになりました。さらに現在、今秋登録を目指して Research Paper on Economics (RePEc)への接続作業を進めています。

より機能的で国際的な、新しいTCER Working Paper Series の積極的なご活用をよろしくお願いいたします。

## TCER Working Paper Series System の概要

### ◆閲覧・ダウンロード◆

TCER Working Paper Series System (TCER WP System)

<http://tcer.or.jp/wp/>

## ◆投稿◆

TCER フェローもしくは特別招待者のみ投稿可能です。

## 手順① ログイン

TCER ウェブサイトの"Working Paper Submission"の"LOGIN"をクリック→投稿用 ID 及びパスワードを入力

※投稿用 ID 及びパスワードはメーリングリストにて定期的に TCER フェローにお伝えしております。ご不明の場合は、TCER 事務局までご連絡ください。

## 手順② 「論文情報」「著者情報」の入力

ワーキングペーパー投稿時には下記の項目を入力。英語と日本語の併記に完全対応。

- ・英語論文の場合：英語による記入のみ
- ・日本論文の場合：英語と日本語の両方の言語による記入

## 「論文情報」

Language used in paper (論文使用言語)

Title of paper (論文タイトル)

Category of paper (論文カテゴリー)

JEL Classification codes (JEL 分類コード) (3 つまで)

Keyword(s) (キーワード) (5 つまで)

Abstract (概要)

Length of paper (論文のページ数)

Uploading PDF file of paper (論文 PDF ファイルのアップロード)

## 「著者情報」 (すべての著者について)

Name of author (著者名)

Corresponding author (当該著者が連絡を取る著者かどうか) (1 論文に必ず 1 人指定)

Affiliation (所属研究機関・大学名)

Affiliation (部局・学部・大学院研究科名)

Postal address of affiliated institution (所属研究機関住所)

Email address (当該著者のメールアドレス)

TCER fellow (当該著者が TCER フェローであるかどうか)

※投稿が完了と共に、TCER WP System から Corresponding author 宛に確認メールが自動送信されます。

手順③ 投稿論文のカテゴリー・エディターによる採否チェック  
採択の場合、TCER Working Paper Series として公開されます。

◆投稿規程◆

投稿にあたっては必ず最新の投稿規程をお読みいただき、同意してください。最新の投稿規程は下記リンクから閲覧できます。

日本語版：<http://tcer.or.jp/wprules/>

英語版：<http://tcer.or.jp/en/wprules/>

◆論文カテゴリー◆

TCER Working Paper Series は下記の 13 のカテゴリーから必ず 1 つのカテゴリーを選択する必要があります。各カテゴリーのカッコ内のアルファベットは対応する JEL Classification コードです。選択したカテゴリーごとにエディターによる採否チェックが行われ、採択の場合には、当該カテゴリーの論文として公開されます。

Mathematical and quantitative methods (C)

Microeconomics (D)

Macroeconomics and monetary economics (E)

International economics (F)

Financial economics (G)

Public economics, health, education, and welfare (H, I)

Labor and demographic economics (J)

Industrial organization (L)

Economic history (N)

Economic development, technological change, and growth (O)

Agricultural and Natural resource, environmental economics (Q)

Urban, rural, and regional economics (R)

Other special topics (A, B, K, M, P, Z)

### 編集後記

記録的な猛暑の 2013 年夏です。皆様いかがお過ごしでしょうか。暑い暑いと言いな  
がらも、屋内で仕事ができる環境に感謝しつつ、日々過ごしています。暑い夏は研究に  
集中できる好機ともいえます、TCER のワーキングペーパー投稿システムが新しく稼働  
しましたので、研究成果の発表に是非ご活用ください (K.H.)。

Newsletter に関するご意見やご感想は代表理事木村福成 [vzf02302@nifty.ne.jp](mailto:vzf02302@nifty.ne.jp)  
または総務理事原田喜美枝 [kimieh@tamacc.chuo-u.ac.jp](mailto:kimieh@tamacc.chuo-u.ac.jp) までご連絡下さい。

=====  
公益財団法人 東京経済研究センター

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703 号室

Tel & Fax 03-3239-2524 Email: [tcer@mbs.sphere.ne.jp](mailto:tcer@mbs.sphere.ne.jp)